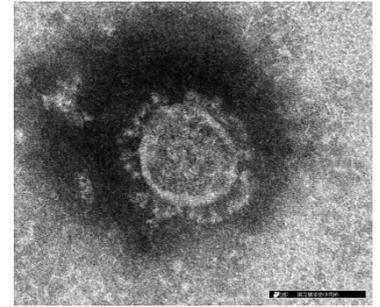


【次なる感染症パンデミックに備える】

～COVID-19 パンデミックの経験が無駄にしないために～

2019年末に端を発した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックに対し、本邦のみならず世界中でCOVID-19の診療・研究・サーベイランスに対応してきました。COVID-19への対応については、2023年5月5日のWHOによる緊急事態宣言の終了および本邦においては2023年5月8日から5類感染症への移行に伴い、大きな節目を迎えましたが、SARS-CoV-2は我々の様々な手立てに対して柔軟かつ迅速な対応（遺伝子変異によるヒトへの順応または馴化）を見せており、今後も市中流行株や海外流入株によるヒトからヒトへの感染が維持されることで、新たな変異系統株が発生し、今後の感染拡大に寄与する可能性は十分考えられます。さらには、様々な要因により発生が予想される新興・再興感染症による次なるパンデミックの影が忍び寄りつつあることも認識しなければなりません。



新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真真像
(国立感染症研究所)

日本におけるCOVID-19パンデミック対応において、その初期段階から効果的な感染拡大防止策を講じるための公衆衛生上の適切かつ迅速な意思決定に困難が生じた主たる要因として、平時における病原体取扱施設の整備やハイリスク病原体を取り扱うことが出来る専門人材の育成が十分に行われていなかったことが挙げられます。

本講演では、「COVID-19の原因ウイルス病原体であるSARS-CoV-2とはいかなるウイルスであるか？」という問いから「これからの社会に必要とされる感染症対策」といった内容に至るまで、COVID-19パンデミックから得られた経験をもとに感染症に強い社会を作るための方策についてお話しします。

講師

国立大学法人 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 教授
武内寛明 先生

日時

令和6年3月8日（金）15:00～16:50

会場

神奈川県衛生研究所 6階 大会議室
(神奈川県茅ヶ崎市下町屋1-3-1)



J R 茅ヶ崎駅北口下車 神奈川中央交通バス
(浜見平団地行：町屋下車8分)
(平塚駅北口行：今宿下車5分)